

平成29年度 事業 報 告

平成29年度は、法人設立20年の節目の年であった。介護人材を中心に人材確保が依然として厳しい状況のなか、地域とともに歩んできた20年に感謝しつつ、将来に向けた事業の継続性と変革を重視する取組みを行った。

1. 利用者満足度の向上

入居者を中心とした取り組みとして、特養1号館のフロアを利用した地元商店の出張販売や、地域のNPO法人が運営する障害者福祉施設との連携による出店など生活環境に潤いを持たせる取り組みを行った。この事は、工房利用者にやりがいを持って頂くことが出来、一定の社会貢献にも繋がっている。

在宅サービスについては、在宅での生活支援や介護予防の観点から、自立の方が利用する元気はつらつ教室の運営日拡大や、今後は食事サービス支援を推進していきたい。

2. 人材の安定確保と育成

依然として介護人材を中心に慢性的な人材不足が続いている。特養1号館の入所定員については、第1期計画の12床空床に続いて将来的には1号館(従来型)の閉鎖も余儀なくされている。こうした状況のなか管理者を中心とした勉強会を開催し経営会議としても位置付け、中期経営計画の策定作業を行った。

今後、将来的な新規採用が見込まれないなかで、質の向上及び離職率の減少を図る方策として、資格取得にかかる金銭的な補助制度などを充実させていきたい。

3. 危機管理体制の確立

年度内の完成目標に取り組んだBCP(事業継続計画)については、完成をすることが出来た。今後は隨時見直しを行い、備蓄計画や訓練の実施など実効性の高いものを作り上げていく。

リスク管理については、毎月の委員会において全職場間で共有をはかり、要因分析等を実施できた。また、身体拘束についても同様に行い、利用者家族との連絡も必要に応じて実施できた。

4. 安定経営の確立

経営組織のガバナンスの強化については、法改正に則った役員会・評議員会の運営が出来た。

事業運営の透明性の向上については、今年度の課題とした予算対比やサービスごとの経営分析に反映できる諸表、労務月報などが依然未達であり次年度も引き続き取組み課題とする。

中期経営計画については、管理者を中心に策定作業を行っており次年度には完成させたい。

内部外部牽制体制については、他法人の監査並びに会計事務所による月次監査の実施を計画通り実施し、他法人監査結果においては改善評価が得られた。

5. 在宅生活の継続及び高齢者の生きがいづくり

在宅生活継続の支援策として、休止中のグループホーム居室を高齢者生活福祉センターに転用する計画を行政と調整した。増床の時期は未定であるが、6床増床で在宅生活支援が期待出来る。

また、新規利用も含めた在宅サービス利用者への食事サービスの拡充について、次年度は職員主体的参加のプロジェクトとしてスタートさせる。

6. 社会福祉法人として求められる地域貢献の実施

利用料の一部軽減など継続実施の制度に加え、今年度は専門職者が各地域ごとに出向いて行う講話を計画し、管理栄養士による栄養講話を2回実施した。次年度も引き続き各分野での講話活動を行い、地域に出向くことで地域住民への支援を継続推進していく。

平成29年度 利用実績表

	特養	ショート
平均介護度	3.9	2.5
1日平均利用者数	63.1人	22.7人
(ユニット型)	(43.9人)	(19.9人)
(従来型)	(19.2人)	(2.8人)
利用延べ数	22,964人	8,269人
稼働率	78.9%	113.4%
新規利用者数	1人	29人

	デイ一般	デイ認知	元気はつらつ	いもほりの家
平均介護度	1.7	2.6	—	1.8
1日平均利用者数	16.7人	3.7人	10.2人	14.2人
利用者延べ数	5,165人	1,150人	775人	5,188人
稼働率	66.7%	46.1%	—	74.1%
新規利用者数	32人	3人	19人	11人
	訪問介護	訪問入浴	高福センタ-	居宅支援
平均介護度	2.6	4.4	1.0	—
1日平均利用者数	7.8人	0.5人	5.9人	133人
利用者延べ数	2,853人	143人	2,168人	1,596人
稼働率	—	—	74.3%	—
新規利用者数	23人	1人	3人	56人

※元気はつらつ教室：延べ利用者数は稼働日数76日(水・金)を基に算出

※いもほりの家：稼働率は登録定員29名に対し年間平均登録者数21.5人を基に算出

※居宅支援：平均利用者数は1ヶ月の給付管理対象者の年間平均を掲載